

付録① パソドブレの音楽の構成

《燕のジョー氏の解説より引用》

皆様は日頃楽しんでパソドブレを踊ってみえますでしょうか？パソドブレは、非常に簡単で楽しい種目ですが、どうしても後回しになる種目なので、色々な知識を勉強してパソドブレを身近なものにしましょう。

まず、パソドブレの音楽で、特にメダルテストや競技会、発表会などに使われる標準の曲は、『エスパニア・カーニ（別名『スパニッシュ・ジブシー』）』という、フラメンコなどでも有名な曲か、又はすべてこの曲の小節（フレーズ）構成を踏襲した曲が多いです。エスパニア・カーニは闘牛の際に闘牛士の入場に使われる曲で、スペインのマルキーナという作曲家が作ったそうです。「パソ・ドブレ」という単語自体スペイン語で、パソは「歩行、道、ステップする事」という意味（英語で言えば、通過を意味するパスや、ステップ）で、ドブレは語感から判る様に、英語のダブルと同語源で『2重の』という意味で、両者合わせて、『2重のステップ』つまり2歩という事で、パソドブレが2拍子であり、2歩を基本に（例えばシュールプラスや、シャッセの様に）ステップが作られている事を強調している様です。しかしパソドブレという大元の単語は、スペインの民族音楽を意味するようで、それをレクリエーションダンス、競技ダンス的に、英国人が整頓、作成したものが現在のパソドブレという踊りなのでしょう。

エスパニア・カーニには、2か所、音楽が盛り上がってジャンという風に演奏され、その直後一旦無音（一瞬）になる部分があります。これをハイライトと呼びます。映画でもハイライトシーン等と言いますが、音楽が盛り上がって最高点に達した部分の事です。一般の多くのパソドブレ曲においては、一応（1）エスパニア・カーニと全く同じ部分にハイライト（2か所）がある。（2）ハイライトはあるが、（1）とは異なる場所にある。（3）ハイライトはない。の3種類のパソドブレがあり、洋盤のCD等を買うと、音楽は非常におしゃれで素晴らしいのだけれども、ハイライトがない曲だったり、延々5分も続き、デモ等にも使いにくかったりで困ったというのは、皆様にも経験があることでしょうか。ちなみにエスパニア・カーニの曲（又はそれに準じた曲＝メダルテストや競技会など、私達が使うパソドブレの曲の95%）の場合は、ハイライトの位置は、**第1ハイライトが、最初から43秒の時点、第2ハイライトはそこから35秒の時点（最初からは1分18秒）**にあり、最後の音も一種ハイライトの様に盛り上がって終わる（最初からほぼ2分5秒で演奏終了）ので、簡単に言えば、この二つのハイライトは、**2分5秒の曲をほぼ3等分**しています。そして、皆様は何度も聴いていらっしゃるの、感じていらっしゃると思いますが、パソドブレの曲は、他のワルツやルンバの様に、前奏が4小節、その後2コーラス…等という風に単純な音楽構成ではなくて、以下の様に一風変わっているの、それを解説いたします。

まずパソドブレは標準としては、2拍子（2/4拍子）ですが、だからと言って、ダンスの際に『1 2 1 2』と数えていたのでは、8歩以上のステップ、例えばシックスティーン等を踊る時に、今幾つ目の1 2なのかが判らなくなり、非常に不便ですから、通常は、8拍子的に、1～8、1～8の様にカウントします。まず、最初の『パンバラパンバラパンバラパンパン…』というリズムで、8拍子で一まとまりになったもの（＝44小節分）が、4個続きます。（編集部の後からの註：WDSFの教本では、この部分全部を“イントロダクション”＝広い意味での“導入”“紹介部分”と呼んでいます。）その直後に、音楽がやや静かになる部分が4拍あり、この部分のみ別に独立的に数えます。（同じく、ここは、WDSFの教本では“ミニ・ハイライト”と呼んでいます。）つまり、1～4で数え、その後5～8とは言わずに、再度1から数えるという事なので、知らずに足型のプリントを見ると、ミスプリントかな？と思った方も多いのではないのでしょうか。（たとえばブロンズ級ではこの部分はプロムナード クローズとシャッセが終わって、シュール プラスを踊る部分に該当し、移動せず静かにしている部分が、音楽と非常に合っていて素晴らしいです。勿論そういう風に工夫して作られているのです。）その後、更に最初同様な感じの8拍子部分が4個続き、その後『黄金の階段（筆者命名。丁度階段の様に8拍が段々盛り上がってくる感じなので）』が2回（＝16ビート）続きます。（編集部の後からの註：同じくWDSFの教本では、この32+16＝合計48拍を“コーラス”と呼びます。）『パンパン、ジャン！！』という風に、3拍目に第1ハイライトが強く響きます。そして、半拍分の長さの静けさがあり、残りの半拍部分が『タタ』という風に次の音楽部分に先導して鳴ります。

（編集部の後からの註：当時の愛知県のパソドブレのメダルテストの足型を例に解説しておりますので、他県の人やそれを知らない人には、判り辛いのですが、我慢して下さいませ。）

その後、一見（一聴？）同様な8拍の集合が4個分続く（編集部の後からの註：これも同様に“コーラス”と呼びます。）のですが、実は精密に言うと、2番目の部分は10拍のまとまりになり、4番目の部分は2拍減って6拍のまとまりになるのです。（2拍子で数えれば、そういう相違は起こりません。）先述のブロンズ級パソドブレでは、まず10拍の部分は『プロムナード』を踊って、その後右へ回転する2歩のシャッセを追加して10まで数え、その後は普通の8拍で『シャッセ ツー レフト』と『スパニッシュ ラインの4拍』を踊り、その後『スパニッシュ ラインの後半4拍』＋『プロムナード クローズの2歩』で、6までしか数えない様になっています。この部分も知らずに足型プリントを見ると、ミスプリントと誤解する方も多いでしょう。勿論財団のブロンズ級、ゴールド級、ファイナル級、スーパーファイナル級総てでこの部分は、8、10、8、6拍とプリントされて、その様なビートのまとまりで足型が作られています。今一度プリントをご確認ください。さて、音楽の音色の強い変化はその直後にあります。この6拍のすぐ後に、非常に判り易い「ンパラパッパ ンタ ンタ、ンパラパッパ ンタ ンタ」という、何かカスタネットをたたいている様な、打楽器のパークッション的なリズムの部分が8拍来ます。

（ブロンズ級ではその部分は、『ディプラスマンと、右へのシャッセ』になっていて、直接はそのリズムが明確

に反映されてはいませんが、例えばトッププロのデモや競技会などでは、その部分で『フラメンコ タップ』をコントラ ポジションで向かい合って踊ったり、又は打楽器がそういうリズムっぽく細かくたたかれる感じにびつたり、その場での移動しない足踏み的な振り付けが多くなされます。

その後、前述のパーカッション的な部分を引き継ぐような感じで、8拍のまとまりが2回続きます。(編集部の後からの註:WDSFの教本では、まずこのパーカッション的な8拍のまとまり二つ分=16拍を“第1フラメンコ・セクション”と呼びます。つまりフラメンコのカスタネット的な音調だからです。そして、特に最後の4拍を、

“ブリッジ=橋”^{はし}と命名しています。これは、その後のファンファーレ開始部分までの、同様なパーカッション的な8拍《これを第2フラメンコ・セクションと呼びます。》への「橋渡し」になる盛り上がり部分だからです。)精密に言うと、この部分は8拍のまとまりが2回と言うよりも、4拍のまとまりが4回という感じです。その後、音楽の感じがガラリと変わって、『パッパパ〜〜〜ン!!』という風に、4拍分の長さでファンファーレ(ラッパ)の音が鳴り響き、強い盛り上がりで上下感のある音の展開が8拍あって、その直後の第1拍目のビートが強いジャンの音=第2ハイライトになります。(ブロンズ級では、ファンファーレの部分はちょうど『フレゴリーナ』の真ん中部分で、これと言ってファンファーレに合致してはいませんが、競技会やデモの派手な振り付けでは、この部分は多くの踊り手が、例えば男女が遠く離れて、ファンファーレの時に、男性が両手を広げて、女性(牛?)や観客にプレゼンテーション(アピール)し、その後例えば女性が男性に駆け寄って来て(牛が襲って来る!?)そして回転などして、第2ハイライトのジャンの音で鋭くポーズする(牛がやっつけられる!?)という様に非常に音楽に合わせて振りつけられています。是非トッププロなどのビデオを見て確認してみてください。メダルテストではなかなかそういう男女が離れて踊る様な難しい振り付けは踊りにくいので仕方のない事でしょう。

さて、その後の部分は更に1曲の約1/3ある訳ですが、ここは皆様にお任せしますので、よく聴いて上記の様にフレーズを研究なさってください。大体において、8拍のまとまりのままになっていますが、やはり特徴的な部分が色々あり、世界のトッププロや、デモ、競技会の選手の足型等はそのビートや強弱の特徴に合わせて足型が振り付けてあるので、競技会やデモの映像をお持ちの方は、調べてみると発見が色々あってとても面白いでしょう。ちなみに、ブロンズ級等のテストルーティンは、第2ハイライトまでしか足型は有りませんが、第2ハイライト以降も初めから繰り返して踊ると判りますが、最初~第1ハイライトまでと、第2ハイライト~最後までは、後者の方が音が一つ分短いだけでほぼ同じです。なので、メダルテストの足型のみで、追加の振り付けをする事なく、丸々1曲簡単にパーティでデモが踊れますから、ぜひ生徒さんに勧めると良いですね。

ところでこれに関連してですが、例えば選手で、パソドブレの競技用足型を作る(作ってもらう)とか生徒さんの教室パーティでのソロデモ、又はサマーパーティ等の紅白戦用の足型を作成する等の際には、以下の点を留意すると良いでしょう。既にほとんど上述した通りですが、まとめておくと、①まず、最初から8拍子のまとまりが4個終了した後は、『静かな4拍』(編集部註:WDSFの教本では“ミニ・ハイライト”と命名されている部分の事です。)が来るので、ここはシュール プラスか、ポーズを取る様にし、あまり激しく移動しない様な振り付けにする。②第1ハイライトの前あたりには、『黄金の階段』が2回あるので、ここは8拍を2回盛り上がる(階段を登る)様な感じの振り付けにする。その後2拍あってから、第1ハイライトのジャンが来る。③第1ハイライト後の部分は、8拍過ぎると、10拍、8拍、6拍(音の合計としては、8拍×3=24拍になっているが、強弱が異なる。)になるので、この様な歩数のまとまりの足型にする。④そのすぐ直後は、4拍のパーカッション(打楽器)的なリズムが2回繰り返される(=8拍)ので、フラメンコタップや強い足踏みなどの、リズムをことさら強調する振り付けにする。⑤その後第2ハイライトの前は、上述の様にファンファーレの部分が来て非常に強くなるので、この時男女は離れるなどし、その後駆け寄ってポーズという風に、音に合わせてドラマチックな振り付けにする。以上の①~⑤を順守すれば、貴方のパソはオリジナルの素晴らしい、感動のパソになる事間違いないです!!

勿論、全部4拍子的、もしくは8拍子的に振り付けをして、そして第1ハイライトと第2ハイライトでポーズをつけ、第2ハイライト後は最初から繰り返すようにすれば、立派に自分でもオリジナルの足型を作る事が出来ますが、上述の様な5、6か所の音楽の強さ、拍数、フレーズに合わせた振り付けをすれば、より素晴らしく音楽に合ったパソドブレになります。パソドブレだとピンとこない人も多いでしょうから、同様な事を簡単にワルツで、説明しておきますと、深く音楽に合っ見える(踊る)という事は、以下の様に考えると良いでしょう。第1段階としては、単に3拍子を外れない様に踊れば、言うまでもなく音にはきちんと合います。第2段階としては、各小節において、1を、その直前で深くローアし強くステップし、2はライズし、3拍目は空中に消えていく(放散)ように踊る。こうすれば毎回繰り返される3拍の強弱のイメージとステップがマッチして、ワルツらしいスウィングが生まれます。第3段階としては、8小節(又は4小節でも可)を一まとまりに、それぞれの小節を、強・弱・中強・弱、そして残りの4小節は、今の4小節を主とした時に、従となる様な、やや弱くフォローするような感じで同様に、強・弱・中強・弱(起・承・転・結という言い方もなされます)で踊ると、全体の流れまでもが、音楽に非常にマッチする様になります。(ただし、競技会の様に競う場合は、その瞬間瞬間を強く踊らないと審査員に見てもらえないという様な面があるので、あくまでも一つのイメージモデルとしてお考え下さい。)そして第4段階としては、もし使う曲が既に決まっているソロデモの様な時は、使用する音楽の各ビートや強弱、リズム(例えば、タンタタタンと聴こえる小節には、12と3のカウントの足型、タタタタタンと

聴こえる小節には、1と2と3の足型を振り充てれば、より良く音に合致します。)を考え、更に楽しそうな部分には飛び跳ねる様な、ややトーンが落ちた寂しい流れの部分には、静かでややゆっくりなピクチャーポーズなどを充てれば、完璧に音楽に合った振り付けになります。パソドブレでは、先述した様な①～⑤の『変化、特徴』をしっかりと押さえて足型構成すれば、非常にパソドブレの曲にマッチした振り付けになる訳です。

ところで、一般会員の皆様が聴くパソドブレは、メダルテストの時使っているパソドブレが多いと思いますので、混乱を避けるために一言説明しておきますと、今テストで使われている、「ダンスマイライフ」CD、VOL8のパソドブレ『スペインの風』は、残念ながら、上述の、第1ハイライト少し過ぎの10拍と6拍あたりのフレーズが、エスパーニャ・カーニとはかなり異なっています。これはやはり、このダンスマイライフシリーズのCDが、著作権無料の、作曲者没後50年過ぎてからの音楽を使っているとか、又、競技会の内容に詳しくない演奏者が演奏しているとか色々な原因があると思いますが、きちんとした競技会では絶対この曲は使用されないでしょう。きちんとした競技会で用いられるパソドブレは、必ずエスパーニャ・カーニのフレーズに全くそのままに準拠しております。(メロディーは曲によって異なりますが…)そうでなければ、選手達が事前に振り付けてきた、フレーズの拍数や強弱に合わないので、エスパーニャ・カーニのフレーズ構成と異なる曲が演奏される事は絶対にあり得ません。では実際に、この『スペインの風』という名前の曲が、その部分どの様な構成になっているかを解説しておきますから、お手持ちのCDでご確認下されると、より深い勉強になります。まず、最初から第1ハイライトまでは、実にぴったりと、エスパーニャ・カーニのフレーズに合致し、この稿の最初に述べた様な構成になっており、拍数も強弱も全く同一でその点は問題無しです。ところが、第1ハイライト以降は次の様になっています。ビート(拍)のまとまりが、8・10・8・8・8・8・8・8そして、次のまとまりの第3拍目が第2ハイライトのジャンになっています。(ファンファーレは無し!!むしろ第1ハイライトの直前に似ている。)エスパーニャ・カーニの場合は、前述した様にこの部分は8・10・8・6・8・8・8・4(ここがファンファーレ)・8そしてすぐ次の第1拍目が第2ハイライトのジャンです。勿論ビートの合計数は一致しています。(そうでないと第2ハイライトがずれるので、テストには当然使用できません。)なので、テスト使用曲の方は10拍の部分はあるのですが、次の6拍部分は異なり、ずーっと8拍子的なまま進行するので、エスパーニャ・カーニ的に振り付けてあるテストルーテンは、ここでちょっと違和感を覚えてしまうのですが、勿論第2ハイライトは合致しているのです、そのまま気にせず無視して踊り過ごせば又フレーズに合う事になります。



ちなみに私もテストでこの曲で踊ると、この10拍と6拍あたりで、カウントがずれる様に感じます。(実際にはビートにずれる事はありません、あくまで強弱がエスパーニャ・カーニと異なるという事です。)そこで、私もとことん調べないと気が済まない性格なので、手元にあるダンスマイライフCDと、カム&ダンスCDの、あるだけ分のパソドブレがどんなフレーズ構成になっているか調べて、別表にしてみましたので、ご参考になさってください。

以下は余談ですが、とにかくパソドブレは色々な原因で後回しになり、ダンスパーティや発表会でも敬遠される踊りです。その理由としては(1)パーティ等で頻繁にはかからないし、かかったとしても、テストルーテンで踊ろうとすると、なるべくならハイライトを合わせたいので、5拍目から出たいが、普通は次に何が掛かるか判らないパーティでは、かかってから慌ててスタンバイしてももう5拍以上演奏されている。(2)やはりラテンはルンバ、チャチャチャ、そしてあと覚えるのはサンバ位なので、ジャイブと共にパソは人気がない…以上の2

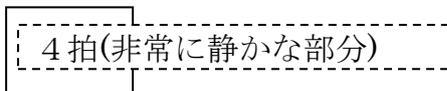
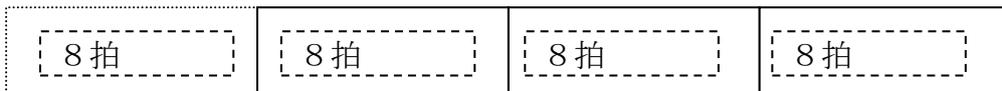
点が挙げられます。しかしよ〜く考えると、パソドブレはラテンの中でも、クローズド ホールドが多くフットワークもほとんど普通に歩く様にヒールからでOKなので、実に、“身体を離して踊るスタンダード”の様なもので、初級の生徒さんの教材としても実に素晴らしい種目で、現にアメリカ等のダンス教室では、初心者用にふんだんに採用されているとの事です。初心者にも普通のブルースやワルツでぴったりおなかをくっつける事をいきなり教えると、色々生理的にも受け付けられない事が多いので、その点、離れてスタンダードを踊る様なパソドブレは実に重宝すると言える訳です。私のお勧めの踊り方(教室での練習、レッスン、パーティのダンスタイム等ほとんどの場合に使える)は、あたかもワルツで、ナチュラルスピナーン、ホイスク、シャッセフロム PP、ウィーブフロム PP、リバースターン位の超初級の5~6個を使い回して踊る様に、パソドブレを以下の5~6個のステップのみで踊る事です。

シュールプラス、右へのシャッセ、シックスティーン、セパレーション、アタック

これで十分間が持つし、簡単で実に楽しいです。慣れて来たら、更に、プロムナード アンド カウンター プロムナード、プロムナード、スパニッシュ ライン、プロムナード クローズ、グランド サークル等を順次追加す

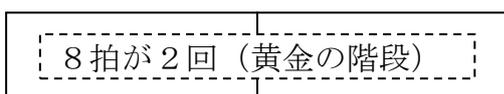
ると、もっとバラエティ豊かになります。

パソドブレ(おもにエスパニア・カーニ)のフレーズ構成



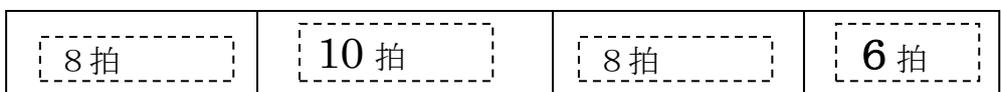
ミニ・ハイ
ライト

イントロダ
クション

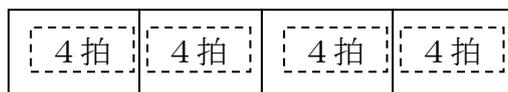
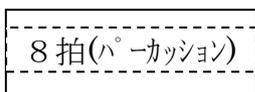


コーラス(上記の8拍
×6回)

第3拍目が第1ハイライト

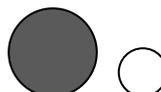
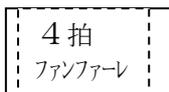


コーラス



第1フレイズ・セクション(上記の16拍)

第2フレイズ・セクション(残りの8拍)



第1拍目が第2ハイライト

これ以降は、皆様自分で聴いて、同じように書いてみて下さい。面白い
ですよ。

《表》ダンスマイライフシリーズ CD と、カム&ダンス CD のパソドブレ曲において、『エス
パニア・カーニの構成と一致するか?』の調査結果報告

ダンスマイライフ CD	曲名	調査結果
VOL. 5	エルガト・モン テス	『静かな4拍』の位置が異なる。『黄金の階段』は明確。第1ハイ ライト以降は10拍の位置は同じだが、6拍がファンファーレの直前に来る。即 ち、8 10 8 8 8 8 6 4(ファンファーレ) 8そして第2ハイライトとなる。

VOL. 6	スパニッシュ・ダンサー	第1ハイトまではエスパニア・カーニとほぼ同じ。その後8 10 8 8 8 8 6 4(ファンファーレ) 6そして第2ハイトとなり、 驚くべき事に2拍足りない。 なのでテストや競技会には使用不可！！
VOL. 7	アラゴネーズ	8拍子(又は4拍子)的に延々続き、 ハイライトは全く無し！！ これは題名に()して書いてある様に、歌劇カルメンからの音楽なので、もともとエスパニア・カーニとは無関係に作られているからか？勿論競技会、テストには不向き。
VOL. 8	スペインの風	今現在テストに使用されている。構成は上述の文章参照。

カム&ダンスCD	曲名	調査結果
VOL. 28	ビバ・エスパーニャ	これもかなり異なるので、競技会、テストには使用不可！まず、第1ハイト直前までは、非常にエスパニア・カーニに準拠しているが、 何と2拍足りずに、『黄金の階段』の最終拍が第1ハイトとなっている。 勿論テストルーテンに合わせたら、ずれまくり。そしてその後8 8 8 8 8 8 8 4 4(ファンファーレ) 8そして第2ハイトが鳴り響く。ファンファーレから第2ハイトの部分は素晴らしく精巧にエスパニア・カーニに準拠。
VOL. 29	ヴェン・ア・バイリア	非常にビートが明確で、エスパニア・カーニに似ている。第1ハイトまではエスパニア・カーニと強弱、曲相(曲想)とも全く完璧に同じ。ただし、その後曲想は似ているものの、8 8 8 8 8 8 8 4(ファンファーレ) 8そして第2ハイトとなり、10拍、6拍の部分は全く無しで、8拍子のまま続く。ビート数等はエスパニア・カーニに合致しているので、テスト、競技会などに使用可能。
VOL. 30	エスパニア・カーニ	これは大元ズバリ。
VOL. 31	エスパニア・カーニ	これもなぜか2集続いてエスパニア・カーニで、演奏する楽団は違うようだが、素晴らしい。タイトルの()の中に、文章中に述べた、大元の作者のマルキーナの名前が書いてある。
VOL. 32	マラゲーニア	これも上記のどれとも異なる。『静かな4拍』はないが、この部分が8拍になり、『黄金の階段』の最終拍が第1ハイトになり、拍数はぴったりなので、競技会、テストに使用可能。第2ハイトまでは3段上に書いた、ヴェン・ア・バイリアと同一の構成。

※本当に理想的には、この本の出版辞典で、既に発売されている『カム&ダンス』の第40集等も調べると良いのですが、そこまでの人的余裕がありませんので、当時の資料のままになっている事を、お詫び申し上げます。